

優秀賞

当たり前を壊す

千葉市立葛城中学校 2年 櫻井 琴子

「応援団の募集は、男子のみです。」

そのことを伝えられたとき、私は大きな衝撃を受けた。小学校では応援団は男女関係なくやっていた。女子の団長もいた。それなのに、なぜ。

中学校に入学してから私は、様々なことが男女で分けられていることを感じた。体操服のズボンが男女で色が違う。男子の長髪は禁止。

特に気になっていたのはやはり応援団のこと。私の中学校の応援団はずっと男子だけだった。それが当たり前。だから女子はやりたくても応募すらできない。これはおかしい。男女の壁は、確実にそこにあった。

「応援団を女子も可にしてください。」

同じように感じている友達が投票箱に意見を提出していた。素晴らしいと思った。おかしいと思ったこと、壊したい壁があるなら真正面からむかっていけば良い。私も賛同した。その場にいた応援団の男子には「練習大変だから難しいよ」と反対されたが、そんなの、やってみなければわからない。そして今年、応援団の女子の参加が可能になり、一人の女子が応援団に加わった。あの時の私たちの意見が、果たしてこの結果に直接つながったのかはわからないが、嬉しかった。行動すれば、壁は壊していけると思った。社会にはいろいろな人がいる。女性、男性、外見に反して心が女性の人、男性の人。たくさんの立場の人がそれぞれの思いで生きている。皆が暮らしやすくするには、性別を超えて、私たちの心の中にある壁を壊さなければならぬ。

壁を壊すことは容易ではない。物事を多面的にとらえて、当たり前を一度疑ってみて、おかしいと思ったことには、勇気を出して行動してみる。伝統だから、女だから、男だから、そんなことに縛られた人生を私は送りたい。自分から行動できる人に、私はなりたい。